優秀賞

「いのちのまつり」をよんで

荒川区立汐入東小学校六年
園田　遥香

柳田先生お元気ですか。

先生は、ご先祖様と自分の命との関係について考えたことがありますか？私は、「いのちのまつり」という本を読んで、その事について考えました。これから先生に、私が考えたことをお伝えします。

「いのちのまつり」という本は、主人公のコウちゃんが自分のご先祖様や、今まで長い間つながってきた命について考えるお話です。

この本には、「ずっとずっと宇宙の始まりから、命は続いてきたからね。数えきれないご先祖様が誰一人欠けても、君は生まれてこなかったんだ。」という言葉が書かれています。私はこの部分を読んで、確かにそうだなと思いました。なぜなら、私にもたくさんのご先祖様がいると思うけど、何か一つでもちがったら、誰か一人でもちがったら、自分は生まれてこなかったということを実感したからです。なので、生まれてこれたことに感謝して、毎日を過ごしていきたいです。

そしてこの本には、「命は目には見えないけれど、ずっとずっとつながっていくのさ」という言葉もあります。私は、この部分から自分の命のすごさに気付きました。また、私に命をくれた全ての人に「ありがとう」と伝えたくなりました。

ご先祖様の中には、戦争の中で一生けん命生きた人や、つらくても乗りこえて子孫を残してくれた人がたくさんいると思います。だからこそ、た

くさんの人の思いをせおって今をせいいっぱい生きていかなければいけないと思いました。

～柳田邦男先生からのメッセージ～

ご先祖様のことから命のつながりについて考えさせる子ども向けの本ってめずらしいですね。でも、とても大切なことです。

園田さんは、この本の「ずっとずっと宇宙の始まりから、命は続いてきたからね。数えきれないご先祖様が誰一人欠けても、君は生まれてこなかったんだ」という言葉に注目したのですね。この本が読者に気づかせようとしているだいじな言葉の一つです。

園田さんは、この言葉からすぐに自分のご先祖様のことを考え、「何か一つでもちがったら、誰か一人でもちがったら、自分は生まれてこなかったということを実感した」と書いている。ほんとにそうですね。「誰か一人でもちがったら」今の自分は生まれてこなかったのだから、自分という一人の人間が生まれて、今ここにいるというのは、奇跡みたいな出来事なんですね。

もう一つだいじな言葉にも、園田さんはしっかりと注目している。「命は目に見えないけれど、ずっとずっとつながっていくのさ」という言葉ですね。その言葉から、園田さんは、「自分の命のすごさ」に気付き、「ありがとう」という感謝の言葉を発している。

さらにご先祖様のことを想像するなかで、「ご先祖様の中には、戦争の中で一生けん命生きた人や、つらくても乗りこえて子孫を残してくれた人がた

くさんいると思います」と気づいて、そういう「たくさんの人の思いをせおって、今をせいいっぱい生きていかなければいけない」という思いを抱くようになったというのです。六年生ともなると、そこまで深く考えるようになるのだと、私は感動しました。自分で考えたことを、わかりやすく伝える文章で書いている点、よかったです。